

# バッテング・マーキング素材

バッテングマーキングの問い合わせが多いため、デザイン指示図を掲載します。  
ご自由にお使い下さい。正しいバッテング・マーキングの普及にご協力ください。

車体輪郭を示すこと。ルーフは最上辺に縁取りを入れる。

(車体サイズが認識できなくなるので、中・下段に余計なラインを入れない)

後面シェブロン・  
マーキング併用



車体輪郭が解かるよう  
Aピラーに縁取り  
白反射材

ブロックの長さは60cm程度  
40cm未満は効果なし。

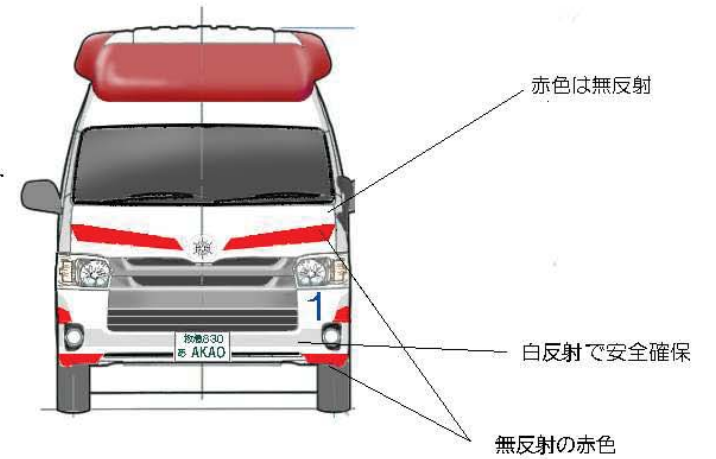
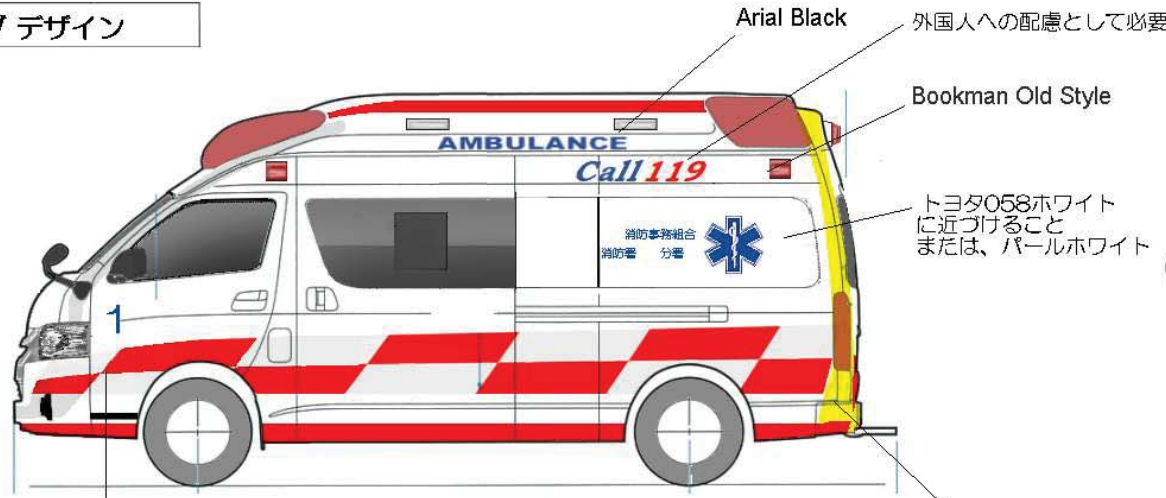
マーキング面に所属等の表記をしない  
反射面積が減ってしまうため。

中央から分けて貼る

青色のバッテング・マーキングは  
海外では警察車両を意味します。

バンパー前面には規定が  
無いが、安全のために白反射材で  
車幅が判るように水平方向に入れると良い。

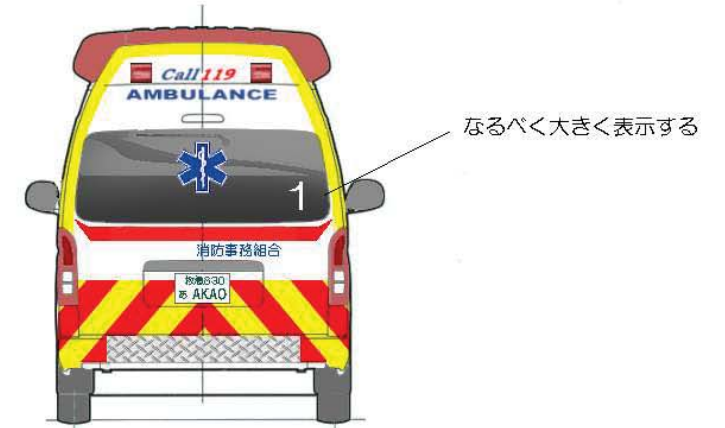
マーキングデザイン



これより前への赤色材は、無反射

黄色反射を下まで伸ばす  
後部の白色反射は、違法なので無反射

右側面文字中心分け



<デザインのポイント>

- 救急車と認識して頂けるよう赤白でデザイン
- 長距離走行時の安全性確保のため欧米で採用されるパッテンバーグマーキングを踏襲したデザイン
- スタッフの二次災害予防のため、反射材で施工。ビーズ反射材を使用し広角に反射する。
- 災害支援など多数の救急車両 集結時でも遠くからでも車両を認識できる

<留意事項>

出会い頭衝突予防のため、必ず車体前端から後端まで施工すること。  
各ブロックの長手は60cm程度確保すること、縦は30cmが望ましい。  
従来の赤帯を彷彿させるよう留意すること。  
紅白垂れ幕のような感じにならないよう注意する。  
見る人に救急車であることを認識し易くするため、車体上下の輪郭線を連続した赤色帯にすることで救急車の赤帯をイメージさせること。  
後面にはシェvronマーキングを併用し、帯幅は15cm程度とすること。